

## 第1三半期の初産婦に発症した急性虫垂炎に対する外科治療の経験

おお たに ゆう すげ ざわ けん やま だ よし のり  
大 谷 裕 菅 澤 健 山 田 敬 教  
くら よし かず お かじ たに しん し こう の きく ひろ  
倉 吉 和 夫 梶 谷 真 司 河 野 菊 弘  
わか つき とし ろう  
若 月 俊 郎

キーワード：妊婦，急性虫垂炎，子宮筋腫合併妊娠，画像診断，外科治療

### 要 旨

症例は25歳の女性。持続する下腹部痛を主訴に当院救急外来を受診した。各種検査にて急性虫垂炎が鑑別診断に挙げたが，受診時妊娠11週であり，CT検査を施行しにくい状況であった。MRIで検索を行う事にしたが，確定診断に至らなかった。最終的に，腹膜炎症状が流産のリスクとなる事を重視して手術を選択した。右傍腹直筋切開にて開腹すると，巨大な子宮の右壁に膿苔を伴った発赤した虫垂が癒着しており，汚染腹水も伴っていた。虫垂を切除し，腹腔内洗浄の後 drain を留置しないで閉創した。術後は大きな問題無く経過し，術後2週間で退院した。そしてその半年後に無事第一子を出産した。本症例は子宮筋腫合併妊娠に急性虫垂炎を合併した極めて特異なケースであり，その診断と治療方針の決定に苦慮したが，当該科が横断的に関わる事により，安全に患者管理ができ，良好な経過をとった。

### はじめに

急性腹症は，日常診療の現場で遭遇する頻度の高い疾患群で，その原因疾患は複雑多岐に渡る<sup>1)</sup>。虫垂炎や胆嚢炎などの消化器疾患が主体だが，泌尿生殖器疾患や婦人科疾患なども含まれ<sup>2)</sup>，限られた時間内で原因疾患を同定し，治療方針を決定

する事は容易では無い。我々は，第1三半期（妊娠11週）の初産婦に発症した虫垂炎の一例を経験したが，その診断と治療方針決定は容易では無かった。本症例につき，文献的考察とともに治療の概要を報告する。

### 症 例

患者：25歳，女性

主訴：心窩部痛，右下腹部痛

既往歴：妊娠3週で子宮筋腫を合併していると診

Yuu OHTANI et al.

松江市立病院消化器外科

連絡先：〒690-8509 松江市乃白町32-1

松江市立病院消化器外科